

若手研究者コラムリレー

秋吉 遼子 (あきよし りょうこ)



プロフィール

東海大学体育学部スポーツ・レジャー・マネジメント学科 特任助教
日本体育学会の専門領域: 体育社会学

東京都生まれ

2006年 順天堂大学スポーツ健康科学部卒業

2014年 神戸大学大学院人間発達環境学研究所修了 博士(学術)

2014年から東京国際大学人間社会学部を経て、2017年から現職

専門競技 硬式テニス(硬式テニス部女子の副部長をしています)

E-mail: ar768160@tsc.u-tokai.ac.jp



中央左が筆者(ゼミ追いコンにて)

わたしの研究

災害時の公共スポーツ施設のあり方とは!?

私が学部時代から持ち続けている興味関心は、スポーツを通したまちづくりです。そのため、今まで公共スポーツ施設、スポーツツーリズム、スポーツイベント等に関する調査研究に取り組んできました。その中でも公共スポーツ施設に着目して調査研究を進めてきた期間が最も長いのですが、その理由は、公共スポーツ施設は日本のスポーツ施設の1/4を占めるため、公共スポーツ施設のあり方が、私達のふだんのスポーツ実施に影響を及ぼすと考えたためです。

近年自然災害が多く発生していることもあり、公共スポーツ施設は、避難所となることがあります。現在、公共スポーツ施設を含めた公共施設は、指定管理者制度等の導入により、所有者と管理運営者が異なるケースが多くあります。また、公共スポーツ施設は、民間事業者が多く管理運営を行っており、総合型地域スポーツクラブが指定管理者として管理運営を行っている施設もあります。そのため、避難所としての役割も担う公共スポーツ施設において、災害時の対応に関する自治体や指定管理者の現状と課題を明らかにすべく、今年度からこのテーマに取り組み始めました。1995年に起きた阪神・淡路大震災で被災したことが、このテーマに取り組み始めたきっかけであることは間違いありませんが、ふだんの公共スポーツ施設は、多くの人が楽しくスポーツをしたり、みたりすることができ、かつ住民の憩いの場であってほしいと願っています。いざという時の一助になることができれば本望です。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

秋吉遼子(2014)指定管理者制度が導入された公共スポーツ施設のサービス・クオリティに関する研究. 神戸大学大学院博士論文.

必読

(なんでも帳)

スポーツは、世界共通の人類の文化ということを授業を通して実感することがあります。一般体育の実技(硬式テニス)を担当しているのですが、この授業には毎回留学生がいます。特にサウジアラビアからの留学生が多く、その学生達はとても明るく、やる気があります。日本人の学生とも試合やラリーをしながら、楽しそうにコミュニケーションをとっています。日本語で「集合」と言っても集まりませんが、「ジャッラー(アラビア語で集合の意)」と言うと、嬉しそうに集まってきます。しかし、この時期は気を付けなければなりません。そうです、ラマダンです(2019年は5月6日頃から6月7日頃です)。最近は急激に温度が上がってきたため、晴天の日のお昼過ぎ(3限)にテニスをしたら、間違いなく大量に汗をかきます。しかし、サウジアラビアからの留学生は水分補給をしません。その学生達の意思も尊重しながら、授業以外でもスポーツを楽しみたいと思ってもらえるよう取り組んでいます。この授業(スポーツ)を通して、日本人学生は様々な国や宗教の習慣等を知り、留学生は日本人学生とコミュニケーションをとりながら、日本の慣習等も学んでいます。テニスの技術だけでなく、他のことも学生同士で学ぶことができるこの授業は、私にとってやりがいのある授業のひとつです。皆様の授業での工夫等、お聞かせいただけると嬉しいです。

○次回のコラムリレーは体育心理学の「國部雅大」さんを予定しています。

日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました!

→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fy3kcB5a2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)

